復興研究会報告

No.36（令和3年度　第５号）

発行
岩手県立大槌高等学校
広報班
発行日：令和３年12月22日

今年最後の定点観測　12月5日(日)

小鎚川
鮭が泳
ぐ姿

今回は2回目の定点観測でした。前回とは違う場所での活動でしたが、スムーズに進行でき良かったです。とても変化の激しい所もあり、これからも変わっていくのかなと思いました。夏から冬にかけて（短期間で）変わっている場所もありびっくりしました。寒い中でしたが、みんなで楽しく観測することができたので良かったです。　（1年男子）

今回の活動で、前回とは違ったポイントの変化も見ることができました。写真を撮ることで精一杯だった前回とは違い、今回は余裕を持って以前の写真と見比べることができました。また、他の活動メンバーとも協力して活動できたので良かったです。変化があった箇所と無かった場所を色々発見でき楽しかったです。次回もぜひ参加したいと思いました。（1年男子）

家が少しずつ立ち並び多くの人が歩いていたので町の活気も戻りつつあるのだなと思いました。前のような活気はもしかしたら戻ってこないかもしれないけれど、少しずつ復興している様子が写真を通しても伝わってきました。高校生活最後の定点観測でしっかりと楽しむことができ良かったと思います。来年からは千葉に行ってしまいますが、遠くから大槌の復興を応援したいと思いました。　（3年男子）

神戸大学近藤先生などを交えたパネルディスカッション

今回、パネルディスカッションがあり、定点観測活動について詳しく知ることができました。先生方に復興とは何かと伺ったとき、「人とのつながり」とおっしゃっていた事が心に残りました。また、定点観測では重機がなくなり、土だったところが緑になっているなどの変化を見ることができました。これからも定点観測に参加したいと思います。

（2年女子）

今回のパネルディスカッションに参加して、人それぞれの想いや感じ方があり聞いていて自分なりの想いを見つけられたように思いました。今年最後の定点観測は、初めて町方E班として活動を行いました。普段は行く事があまりないので新しい発見ができました。特に小枕方面から見た大槌の風景がすごくきれいで感動しました。（2年女子）

今回は午前中にパネルディスカッションに参加して、先生や参加してくださっている方々の定点観測に対する想いを聞くことができました。先生方の話を聞いて自分もしっかり復興に対して意味を見出してそれを伝えられるようになりたいと思いました。定点観測では小鎚川水門付近の工事が着々と終わりに近づいているなと感じました。変わらないところも増えてきたけど変化を撮影しつづけていきたいです。（2年女子）

パネルディスカッションでは近藤先生、島村さん、高木さん、松橋先生のお話を聞きました。震災当時の事を思い出して涙が出てしまうこともありましたが、貴重なお話を聞けて参加して良かったなと感じました。定点観測では途中から参加しましたが、楽しく活動できたと思います。海での撮影の後に海岸でシーグラスを拾いました。何かに使いたいです。様々な所の工事が進んでいるので、次の定点観測が楽しみです。（2年女子）

今回は2回目の参加だった。午前中はパネルディスカッションで、近藤先生、島村さん、高木さん、松橋先生の話を聞いて、みんな色々な思いを抱いて活動していると感じた。そして、午後の定点観測では、風が強く、2人で写真をとるのが大変だったけれど、きちんと写真をとることができて良かった。今日はD班としておしゃっち周辺を撮影した。小さい頃に、見た事がある写真の場所にも行き、懐かしい気持ちになった。また、午前中のディスカッションから、これからも定点観測の活動が続いてほしいと思った。（3年女子）